

Ⅰ 全体計画

学校の教育目標

### 地域に生きる南台の子

知 かしこく 徳 やさしく 体 げんきよく

令和3年度学校経営方針

### 地域コミュニティの核となる学校 つながろう!南台

伝統と創造で南台の特色へ 地域の風が行き交う学校 一人一人の子におしみない支援を

本校の捉える「確かな学力」

他者とかかわり、進んで自らの考えを深めようとする児童

○主体的に学びに向かう力 ○基礎的・基本的な知識技能の定着 ○思考力・判断力・表現力

#### 令和3年度の指導の重点

<各教科>

・主体的・対話的な学びになるように授業改善をしていき、学びに向かう力を育てる。  
・個に応じた指導を充実させ基本的な知識・技能を身につけると共に、問題解決的な学習を通して、思考力・判断力・表現力を育てる。

<特別の教科 道徳>

・他者の考えを受け止め、よさや違いを分かり合いながら、自己を見つめ、自分の生き方について考えようとする児童を育てる。

<特別活動>

・話し合い活動の仕方を身に付け、多様な集団活動を通して、自主的に活動を創り上げる意識と実践的態度を育てる。

<総合的な学習の時間>

・自ら課題を見つけ、解決していく探究的な学びを通して、自分で問題を解決していく力やものの見方・考え方を育成する。

<生活指導>

・安全・安心を第一に、思いやりの心や社会生活のルール・マナーを身に付けさせ、学習や生活における規範意識を育成する。

<進路指導>

・予測が困難な社会の変化に主体的に対応するため、生涯を通じて学ぶ態度や能力の育成を図る。

#### 授業改善の視点

##### 指導内容・指導方法の工夫

・かかわりながら学ぶことで、学力を身につけるとともに、よりよい人間関係をつくる。  
・ICT等による個に応じた指導や見通しと振り返りにより主体的な学びを実現する。

##### 教育課程編成上の工夫

・計画的な放課後学習を行い、基礎基本の定着をはかる。「寺子屋南台」  
・夏季休業中にも「補充学習(寺子屋南台)」の学習を行う。  
・教科の関連を踏まえ、指導計画を考える。  
・ICT 機器を意図的・計画的に活用する。

##### 評価の工夫

・座席表などを活用し、子供を見取り記録していく。  
・評価を次時の学習に活かし、指導と評価の一体化を行っていく。  
・評価の観点についてそれぞれの観点を趣旨を共通理解していく。

##### 校内研究・研修の工夫

・自ら課題をもち自分事と捉えられる導入と、ゴールに向けて学び続ける意志が続く、ICT を活用した学習過程を工夫する。  
・児童自ら聴きたい、伝えたいと思う課題設定と、聴き方、伝え方の指導の工夫をする。  
・教室の心理的安全性を高める取組を行う。

##### 中学校との連携

・乗り入れ指導を通して、互いの指導方法や児童・生徒の実態を把握し、学種の定着を図る部分の明確化を図る。  
・教科担任制を実施することで、同単元を繰り返し指導することのよさを感じるとともに、評価の工夫・改善を図る。

##### 家庭・地域との連携

・学校経営方針に基づいた学校の考え方を保護者や地域に伝え、共有し、地域と共に子供を育てるようになる。  
・地域の人材を活用した授業を公開していく。

#### 学力向上に向けた任期付短時間勤務教員の活用

・日常の算数の学習において、基礎的な学習を行うクラスに入り、個別の児童の実態を把握する。  
・放課後補充教室にて、個別に対応した課題を行い、基礎基本の定着を図る。  
・夏季休業中に補充学習において、全学年のサポートを行う。

## 2 各教科における授業改善プラン

### (1) 国語科

<p>国語科の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業だけではなく様々な場面で、相手の話を注意してよく聞く習慣をつけ、何を話していたのか確認し、最後まで聞き、内容を理解しようとする態度を養う。聴写も取り入れていく。</li> <li>・書くことの単元や国語の時間だけでなく、他教科他領域でも書く活動を取り入れていく。</li> <li>・語彙力や読み取りの力を身に付けさせるために、読書活動を多く取り入れたり、国語辞典を使った活動や言葉集めを行ったりする。</li> <li>・話の内容を読み取ることや、自分の思いを言葉で表現することへの苦手意識をなくすために、授業時間のみならず、家庭学習との連携を図り、継続して復習を行い習慣化する。</li> </ul>
<p>令和3年度「中野区学力にかかわる調査 国語」の結果より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区内の達成率と比べ、観点でみると「知識・技能」の項目は上回っている学年がほとんどだが、「主体的に取り組む態度」の項目で、-4~-10と開いている学年が多い。領域面では、とくに「書くこと」で落ち込んでいる学年が目立つ。</li> <li>・書くことの単元や国語の時間だけでなく他教科他領域でも書く活動を取り入れていく。</li> </ul>

#### 【小学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○楽しんで音読しようとする児童が多い。</li> <li>○正しい口形を意識した発音をすることは個人差がある。</li> <li>○文字の学習において、字の形を捉えることができるようになりつつあるが、画の長さや方向等はまだ個人差が大きい。</li> <li>○文章の中で「は、を、へ」などの助詞の使い方習得できていない児童もいる。自分の思いを文に書くことが苦手な児童が少なくない。</li> <li>○話を聞く時に集中が続き、最後まで話を聞くことができない児童もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○音読を積み重ねることで、文章の内容を理解したり、登場人物の心情などをより深く考える力を育てたい。</li> <li>○正しい口形を意識して指導する必要がある。</li> <li>○読み手に分かりやすい正しい文字を書けるようになってほしい。日常の様々な書く場面でも正しい字、読みやすい文で書くことが課題である。</li> <li>○助詞を的確に使い、相手に分かりやすい文を書いたり、話したりする力が必要である。自分の思いを文に表し、伝え合う良さを味わえていない児童もいる。</li> <li>○教師や友達の話聞き、学びをより深めたり、考えを広げたりしようとする姿勢に個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1人やグループ、クラス全員等読み方を工夫したりしてより音読を楽しめる場を設定する。</li> <li>○音読の様子を動画で撮影したり、文字と音を対比させる等して、自分の発音を振り返ったり、文字とすりあわせたりする機会をもたせる。</li> <li>○教室内に平仮名50音表を掲示し、いつでも正しい字形を確認できるようにする。日常生活の中で、相手意識をもたせる活動を設定し、日常の書く場面でも相手や自分が読みやすい文字を書くよう心がける。書き順の定着のため、板書の際に教師の手元を見せたり、ひらがな表等で書き順を確認させたりする。</li> <li>○言葉を文末まで話す経験を重ね、適切に助詞を使えるよう、言語環境を整える。文を書いた後は、自分で声に出し読み返すことで推敲する習慣を付けさせる。共通の生活体験を題材にして表現を交流し合う等、表現が広がるよう活動を工夫する。</li> <li>○話を聞く時の姿勢を整える。教師や友達の話聞くこと嬉しい、学びが広がると感じる体験を重ねることが聞く意欲につながる。日々の授業から話題を明確にした上で、児童の多様な発言を活かす話し合い活動の場作りに努める。</li> </ul>

2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○発問や問題文を理解することができない児童がいる。よく読まず、自分の解釈でとらえ、解いてしまう。</li> <li>○文章を書くことに慣れていない。思いや考えをふくらませて書くことができない。</li> <li>○自分の考えや友達の考えを整理して聞いたり、話したりすることが苦手な児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○読み物教材の学習では、様子や心情の読み取りが中心で、言葉に対する着目のさせ方が弱い。</li> <li>○話型の例示が少ない。組み立てを考えながら文を書くことが苦手である。</li> <li>○伝えたいと思わせるような題材の提示や相手意識をもたせることが大切。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○読書を推進し、読み聞かせなどを行うことによって、文章への興味や言葉に対する着目の仕方を養う。</li> <li>○書かせるだけではなく、文章表現の分かりやすいところや工夫したところを提示する。書きたいことをメモに書き、組み立てを考えながら書くように指導する。</li> <li>○伝えたいと思わせるような題材の提示を行う。相手意識をもたせて発表したり、話し合ったりする活動を増やす。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○発問や問題文を理解することができない児童がいる。よく読まず、自分の解釈でとらえ、解いてしまう。</li> <li>○文章を書くことに慣れていない。思いや考えをふくらませて書くことができない。</li> <li>○全体的に受け身な学習態度で、わからない言葉があっても進んで調べる児童は多くはない。</li> <li>○自分の考えを整理して話すことを苦手としている児童がいる。友達の考えのよさに気付き深めていこうとする姿勢があまりみられない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○読み物教材の学習では、様子や心情の読み取りが中心で、言葉に対する着目のさせ方が弱い。</li> <li>○伝えたいと思わせるような題材の提示や相手意識をもたせることを大切にする。</li> <li>○書くことや伝えることのよさを実感できる指導ができていない。書いて表現する学習が少ない。</li> <li>○友達の話の聴きあったり学び合ったりして深めていく良さを実感できていない。わかろうとして聴いたり読んだりできていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○読書を推進し、文章への興味や言葉に対する感覚や着目の仕方を養う。</li> <li>○子供の疑問を大切にし、意欲が高まる教材を提示したり、活動を取り入れたりしていく。辞書の活用を習慣化していく。</li> <li>○日記など、文章を書かせる機会を増やす。全教科・領域で書く機会を増やしていく。書かせるだけでなく、文章表現の分かりやすいところや工夫したところを提示する。</li> <li>○教材文を読むときに、分からない言葉があった際に、国語辞典で調べたり、実際に言葉を使ってみたりしながら知っている語彙を増やしていく。スピーチメモや話型を用いて、内容を整理して話す指導をする。学び合いを多く活用し、わかろうとして考えながら聴くように指導していく。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全体的に受け身の学習態度で、わからない言葉を進んで調べる児童は多くなく、語彙力も少ない。</li> <li>○文章を読んで内容を理解したり、話を聴いたりして深めていく力が十分ではない。</li> <li>○文章を書くことをめんどろくに思い表現を工夫しようとする姿勢が見られない。</li> <li>○自分の考えを整理し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○伝えたいと思わせるような題材の提示や相手意識をもたせることを大切にする。言葉を確認する機会が少ない</li> <li>○友達の話の聴きあったり学び合ったりして深めていく良さを実感できていない。考えながら聴いたり読んだりできていない。</li> <li>○書くことや伝えることのよさを実感できる指導ができていない。</li> <li>○相手意識・目的意識をも</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子供の疑問を大切にし、意欲が高まる教材を提示したり、活動を取り入れたりしていく。辞書の活用を習慣化していく。</li> <li>○より多くの場面で学び合う活動を取り入れ、考えを深めていったり、新しい考えに気付いたりする楽しさを味わわせる</li> <li>○子どもが書く意欲が湧くような題材を設定する。書かせるだけでなく、文章表現の分かりやすいところや工夫したところを発表し合う。</li> <li>○書く活動や話す活動では相手意</li> </ul>

	てわかりやすく話すことを苦手としている児童がいる。	って伝えていない。	識・目的意識を明確にしてから活動に入るようにする。
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○語彙が乏しく、「話す」「書く」表現力が低い。</li> <li>○漢字の定着度が低く、日常的に漢字を使用していない。</li> <li>○文節や単語で区切って読む力が低く、スムーズに読めない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子供たちが主体の学習活動を設ける。</li> <li>○定期的に漢字の習熟を図る活動を取り入れる。</li> <li>○授業の中で音読する機会を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○長文（説明文・物語文）の学習の導入で意味調べを行い、語彙量を増やす。</li> <li>○互いの考えを交流する活動を設定し、表現力の向上につなげる。</li> <li>○单元ごとに漢字の小テストを実施する。週に1回程度、言葉に関するワークシートに取り組む。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○漢字や語彙の習得が不十分であったり、活用できなかつたりする児童が多い。</li> <li>○基本的な文章を書く力が育ってきた。</li> <li>○書く内容にあまり工夫がなく、より豊かな言語表現で伝えようとする姿勢がない。</li> <li>○自分の考えを伝えることに抵抗感をもつ児童が一定数いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○意味の分からない語彙は調べる。文章の中で既習漢字を使う。</li> <li>○段落等の文章の決まりを守り、効果的な構成を考えた文章を書くことができるように書く経験を増やす。</li> <li>○どういふことを書けば良いのか、よりよい文に触れる機会を増やす。</li> <li>○正解、不正解にとらわれず、自分の考えを伝えられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○辞書を活用したり、文章中に用いた漢字の数を意識したりして学習に臨めるように声をかける。</li> <li>○新聞記事に対する自分の考えを書いたり、最近あった出来事を書いたりする機会を毎週設ける。</li> <li>○よりよい文章を教室内に掲示し、児童がそれを読んで、より豊かな言語表現を自分に取り入れられるようにする。</li> <li>○自分の考えを伝えたり聞いたりすることで考えの幅が広がるという経験を積むために、ペアやグループでの学習を取り入れる。</li> </ul>

## (2) 社会科

### 社会科の重点

- ・問題解決的な学習を通して、社会的事象の見方・考え方を育てる。
- ・主体的な学びになるように、学習計画や学習の振り返りを大切にして、見通しをもって学習できるようにする、
- ・「つかむ」「調べる」「まとめる」の各学習過程において、疑問を交流したり、友達と協力して調べたり、考えたことを伝えあったり、協働的・対話的に学習を進め、学びを深める。
- ・学校だけではなく、社会とのつながりを考え選択・判断を大切にし、地域社会に親しみをもてるようにする。

### 【小学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン			
分析内容		指導上の課題	改善案		
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○意欲的に取り組む児童が多く、知識・技能による学習内容の理解がよい。</li> <li>○疑問や調べたいことを問題にするまではいいが、最後まで問題意識を持続できない。</li> <li>○調べて分かったことを自分の言葉で表現するのが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資料の見方や問題意識をもって調べたり社会的に物事を判断したりする学習の流れを定着化できていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習過程の明確化</li> <li>○単元を通して、疑問を交流したり、調べたことや調べたことから考えたことを伝え合ったりして対話的に学習を進めることで、問題意識の持続や学びを深めることにつなげる。</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書や副読本から調べ、まとめる活動は意欲的に取り組んでいるが、そこからあまり広がらない。</li> <li>○疑問から調べたいことを考えられる児童が少なく、問題意識をもって取り組めていない。</li> <li>○見学などでわかった事実を比較・関連・総合させていくのは難しい。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>○活動には興味をもっているが、社会科としてのねらいにそった内容に興味関心をもたせることが十分ではない。</li> <li>○児童の気づきなどを言語化して全体に共有していく活動が十分ではない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童が興味や疑問をもつ資料や教材を選び、提示方法や発問を工夫する。学習計画は児童の予想をもとに、一緒に考え、見通しをもたせる。</li> <li>○児童に問題解決的な学習の流れを説明し、各単元で繰り返し行う。</li> <li>○児童の実態に応じて、集団の規模や内容を工夫しながら、気づきを共有できるように、児童が学び合う活動を重ね、見方・考え方を活用できるように指導していく。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○都道府県の位置・漢字表記は理解している児童が多い</li> <li>○学習した内容について既習事項とのつながり(類似)に気付ける児童がいる</li> <li>○「資料から読み取れる情報」「その情報から考えられる(予想できる)事」を自分の力で見付けたりまとめたりできる児童が少ない</li> <li>○1時間の学習のまとめ、1単元の学習のまとめを自分で書き表すことができない</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>○資料の見方を学ばせる(写真・グラフ・表・年表)</li> <li>○自分が理解したことを自分の言葉で書き表せることができるようにする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○めあてにつながる資料について、1時間に1つは児童に発見・思考の時間を与えるようにする</li> <li>○写真資料…どこに着目して見るのか知らせる</li> <li>○グラフ…「全体の移り変わり」「大きな変化が見られるところ」など視点を与える</li> <li>○表・年表…横軸・縦軸の確認をし、前後のつながりなどを意識させて読ませる</li> <li>○まとめは穴埋め式にし、表し方について学ばせる</li> <li>○自分の力でまとめることを推奨し、穴埋めから移り変わるよう繰り返し指導する</li> </ul>

6年

- 公民・歴史に興味ある児童が多い。
- 「つかむ」「調べる」「まとめる」の各学習過程において、疑問を交流したり、友達と協力して調べたり、考えたことを伝えあったり、協働的・対話的に学習を進めている。

- 学んだことをまとめる活動（新聞作り等）において、個々の創意工夫が足りないので、みんな同じようなまとめになる。



- 学習のまとめ方について、様々なパターンをもっと提示する。
- 比較・関連・総合の方法について繰り返し指導する。

### (3) 算数科

<p>算数科の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数学的な思考力を高めるため、グループやペアなど、対話的な学習を多く取り入れた授業を展開する。</li> <li>・ 課題解決学習を取り入れ、主体的に課題に向き合い、見通しをもち、自ら創意工夫し、解決を図る能力を培う。</li> <li>・ 学習や単元の終わりに、その学習の振り返りをさせることにより、既習事項を活かしてより深い学びに気付く機会をもたせる。</li> <li>・ 知識や技能を、より定着させるために、少人数指導や個別指導で基礎・基本の徹底を目指した授業の展開を図るとともに、東京ベーシックドリルやくり返しドリルを朝学習や授業の導入、宿題として活用し、復習や補習を充実させる。家庭へ働きかけ、家庭学習の習慣化を図る。</li> </ul>
<p>令和3年度「中野区学力にかかわる調査 算数」の結果より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平均正答率は、区平均とほぼ同等であるが、5年生は約-6%の差がある。</li> <li>・ 「主体的に取り組む態度」は、5年生は区の達成率よりも-11.5%と著しく低い。</li> <li>・ 3年生「データの活用」と5年生で基礎と「図形」「データの活用」に落ち込みがあるが、他は大きな差は見られない。</li> </ul>

#### 【小学校】

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本の問題については、足し算や引き算の場面を考え、立式ができるようになりつつあるが応用力は不十分である。</li> <li>○ 問題場面がイメージできず、言語化をすることも難しい児童もおり個人差がある。</li> <li>○ 計算の速さや正確さに個人差がある。</li> <li>○ 時計の読み方の習熟に個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 問題場面をイメージし、理解する力に大きな個人差がある。問題文から自分で必要事項を取り出し判断し立式することに課題がある。</li> <li>○ 数の概念の獲得状況に個人差があり、計算の仕方にも個人差がみられる。急いで計算して、加法なのか減法なのか見落とす児童も多い。</li> <li>○ 日常生活で時計に触れる経験に差があり、習熟にも個人差が生じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 絵や簡単な図を見たり、自分で描いたりしてイメージを広げる活動を取り入れる。既習の問題を振り返られるように掲示を工夫する。また、日常生活の場面と学習がつながりをもてるようにし、学習が生活に生きる経験を重ねさせる。</li> <li>○ 個人差があるため、ブロック等を使って考える、指を使って考える、簡単な図に描いて考える等、自分の段階にあった補助方法の活用を児童が選択できるように、各教室に教材や教具を常備し、いつでも使えるようにしておく。「はやく、かんたん、せいかく」等、よりよい算数的処理をめざせるよう意識付ける。</li> <li>○ 折に触れ時計を読んだり、時計を見て行動させたりして、確実な習熟を図る。模型を使い自分で針を動かす活動をさせる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 計算の式をたてることは出来るが、意味を理解したり、考えを説明することが難しい。</li> <li>○ 問題を意欲的に解いていても、正確に計算できていない児童が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童に考えさせる時間や発言の場を多く設けることや、繰り返し復習させていく必要がある</li> <li>○ 見直しの時間を設けたり、個々に細かく指導する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 書画カメラを使って、教科書の図や良い意見を書いた友達のノートを映して、考えさせる。具体物を使った算数的活動を児童の個々の実態に合わせて行わせ、思考過程の時間を確保する。</li> <li>○ 机間指導やノート等を使って細かく指導したり、正確に計算できるよう声かけをする。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 数の理解や計算能力に優れている。</li> <li>○ 長さやかさの単位換算やひょうとグラフなどのデータの活用が苦手</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ データの活用能力が低く、特に「長さやかさ」「ひょうとグラフ」の学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 問題文の意味や何を求められているかを捉えるための読み取りを丁寧に学習させる。</li> </ul>

	である。	習の理解ができていない。複合的な問題を解く力が弱い。	○資料の読み取りから、活用して問題を解くなど、段階を追って丁寧に指導する。 ○既習事項を活用して問題を解決できるようスパイラル形式での指導をする。
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○計算問題や、算数的活動に積極的な児童が多い。</li> <li>○図形やグラフをかくこと、分度器やコンパス、三角定規などの使い方が難しい児童もいる。</li> <li>○基礎的な問題を解くことはできるが、少し思考が必要になる応用問題では無答の児童がいる。説明などが難しい児童もいる。</li> <li>○言葉を読み取る力が弱いいため、題意を理解できない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○分度器やコンパスなどの練習の時間が少ない</li> <li>○思考の流れやつながりを意識して学習に取り組めていない。(正答か誤答かのみ意識があり、過程の扱いが軽い)</li> <li>○数学的活動と日常が結びついていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習の中で、友達の考えから学ぶ機会を設ける。よい学び方をしていたら全体に広げて、よい学習の仕方を意識させる。</li> <li>○ノート指導を充実させ、思考の流れが分かると同時に振り返りをさせる。</li> <li>○既習事項とのつながりを意識させ、日常場面と問題場面を結び付けて指導を行う。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○発問や問題に対して積極的に取り組んでいる児童は多い。</li> <li>○単位ミスや簡単な計算ミスが目立つ。</li> <li>○図形やグラフをかくこと、分度器やコンパス、三角定規などの使い方が難しい児童もいる。</li> <li>○問題を読み取る力が弱く、題意を理解できない児童がいる。</li> <li>○基礎的な問題を解くことはできるが、応用問題などの思考が必要な問題になると無答の児童が多くいる。</li> <li>○なぜこうなるのかななどの説明などが難しい児童もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単位や分数、大きな数について復習させていくことが必要である。</li> <li>○自分で図や数直線を用いて考えられるようにすることが必要である。</li> <li>○問題を読み取る力を付けることが必要である。</li> <li>○正答か誤答かのみで児童の意識があり、思考の流れやつながりを意識させる学習が不十分になっている。</li> <li>○自分の意見、考えの根拠になるものを考えさせていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○導入で計算問題に取り組んだり、コンパスや三角定規を用いた図形を作成したり、復習を適宜取り入れていく。</li> <li>○図や数直線を用いて考えることが効果的な場面を設けていく。</li> <li>○教材教具を用いたり、具体的な場面理解を促したりすることで、問われていることを式や図に当てはめられるようにする。</li> <li>○友達の考えと自分の考えを比べたり、意見を交換したりする時間を設け、答えだけでなく考えや過程を確認する時間を確保する。</li> <li>○考えの交流を行い、自分の考えの根拠を見つけさせていく。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○発問や問題に対して積極的に取り組んでいる児童は多い。</li> <li>○数直線を用いて、かけ算の立式をしたのち、答えを求めるためにどんな演算をするのかで間違える児童がいる。</li> <li>○言葉を読み取る力が弱いいため、題意を理解できなかったり、場面を想像できなかったりす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○式を見て、求める数を求める式を確実に導くことができる力が必要である。</li> <li>○問題を読み取る力を付けることが必要である。</li> <li>○数学的活動と日常が結びつけることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○様々なパターンの数直線を用いて考える場面の演習を増やす。また、答えが出た後に、適した大きさの答えになっているかを確認する習慣をつける。</li> <li>○問題文を音読したり、下線を引いたりして、問われていることへの理解を促す。また、教材や教具を用い、具体的な場面理解を促す。</li> </ul>



<p>る児童が多数いる。 ○なぜこうなるのかなどの説明することが難しい児童もいる。</p>	<p>力が必要である。 ○自分の意見、考えの根拠になるものを考えさせる場面を増やす必要がある。</p>	<p>○既習事項の確認をしたり、隣同士で考えや意見などを交換しあったりして、自ら気づく機会を設定したり、自分の考えの根拠を見つけさせていく。それを活用できる場面を取り入れる。 ○学習の振り返りを児童の言葉からまとめさせる。自らの言葉で正しく理解できているか振りかえらせる。</p>
---	---	--

**習熟度別少人数指導の充実に向けて**

- ・ 日常の算数の学習において、基礎的な学習を行うクラスに入り、個別の指導を行うとともに児童の実態を把握する。
- ・ レディネステストを行い、児童の実態を把握してクラスを編成していく。
- ・ 放課後補充教室やにて、夏季休業中に補充学習において、個別に対応した課題を行い、基礎基本の定着を図る。

#### (4) 理科

##### 理科の重点

- ・ 観察・実験の技能を高めるために、各単元の「観察のポイント」、「実験のポイント」を明確にし、継続的に指導を続け、技能を高める。また、観察・実験に必要な知識・技能の確認を定期的に行う。
- ・ 問題→予想→仮説→計画→実験→結果→考察→結論の流れを提示し、授業の展開を視覚的にパターン化して取り組ませることで、学習の目的を明確にする。
- ・ 目的意識をもって実験に取り組むために、各単元での問題作りを確実に行う。何のためにこの実験をするのか、毎時間のねらいを児童に対して明確に把握させる。また、結果や考察、結論で、問題を振り返り、実験から得たことを知識として習得できるようにする。
- ・ ノート指導を通し、観察・実験等の記録の仕方、自分の考えの表現の仕方を指導する。

##### 【小学校】

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 観察の視点を知らず、数値や例えた表現を用いて具体的に記録できるようになってきた。</li> <li>○ 何を調べるための実験か、意識が足りなかったり忘れてしまったり、問題と結果と考察の整合性がない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 視点の意識の継続</li> <li>○ ものを比較して考える力の向上</li> <li>○ 問題に対する結論を適切に書く力の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 観察の視点の明確化。短冊や板書で示し、意識できるようにする。</li> <li>○ 理科の用具を効果的に使い、充実した観察ができるようにする。</li> <li>○ 実験の流れ（問題から結論まで）を繰り返し、記録の付け方、結果から考察へのつなげ方、問題から結論まで一貫性のあるまとめ方を学ばせる。</li> <li>○ 各単元での問題作りの際に、その単元に関する児童の既有知識をできるだけ出させてから問題作りや予想を立てて、知りたい、調べたいという意欲を高める。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 疑問から課題をもち、それを明らかにする、学習の流れに慣れていない。</li> <li>○ 実験や観察に意欲的に取り組む児童が多いが、実験や観察のポイントを示しても、それに沿って実験や観察ができない児童がいる。</li> <li>○ 実験結果を考察したり、次の問題を導き出したりすることが難しい児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 導入で子供が興味をもち、問いから課題をつくるような授業ができていない。</li> <li>○ 目的意識をもって、問題を解決するという活動が不十分である。解決した達成感を味わえていない。</li> <li>○ 児童数が多く正確に観察や実験を行っているか見とれず、その場の指導が十分ではない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 疑問を大切にし、観察や実験を行う際に必ず何のために行うのかを明確に示す。その上で、実験の方法を考えたり、結果を考察したりする時間を十分に確保する。</li> <li>○ 少人数グループ単位で観察や実験をさせ、正確にできている児童を取り上げ、正確にできていない児童に教えるなど、相互に学び合える体制をつくる。</li> <li>○ 観察や実験の観点を具体的に例示し、適切に書けている児童の観察カードや記録カードの記入の仕方を紹介し、指導する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 実験計画をたてる段階で目的意識はある。</li> <li>○ 実験が終わる頃には趣旨を忘れていく児童が多く、結果から考察にいくことが難しい。</li> <li>○ 始めた実験（生物）について変化を見続けよ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 目的を忘れないような実験計画を立てる。</li> <li>○ 実体験をもとにした「予想」と実験後を想定した「仮説」をしっかりと立ててから実験に臨む。</li> <li>○ 実験結果が出た後の考察・結論を全児童が理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 導入での子供の疑問・興味から実験に入れるように教材や示し方を工夫する。</li> <li>○ 「予想」…「なんとなく」ではなく根拠を示せるようにする</li> <li>○ 「仮説」…「○○をしたときに△△になれば□□だと言える」表し方を示し、自分で書かせるようにするこ</li> </ul>

	<p>うと主体的に行動できる児童がいる。</p> <p>○実験で体験したこととワークシートやテストの内容とが繋がらない。</p>	<p>できるようにする。</p>	<p>とで、実験の趣旨を忘れないようにする。</p> <p>○複数班の実験結果から共通部分を見付けて「結果」とし、仮説に立ち返って「だから何なのか」とつなげてつなげて考えられるようにする。</p>
<p>6年</p>	<p>○実験・観察に意欲的な児童が多い。</p> <p>○学習した知識を別の事象に結びつけて考えたり、推測したりする児童が増えてきた。</p> <p>○実験で体験したこととワークシートやテストの内容とが繋がらない</p>	<p>○実験における実体験が知識・理解につながらない。</p> <p>○何を確かめる実験なのか、意識させる。</p>	<p>○再現実験を行う。</p> <p>○実験しやすくする工夫と目的をはっきり理解させる工夫の使い分けをする。</p> <p>○理科 TT と連携を図り準備を行う。</p>

(5) 生活科

生活科の重点

- ・児童の思いや願いを育み、意欲や主体性を高める学習にする。【思いや願いをもつ】
- ・児童の身近な生活圏を活動や体験の場や対象にし、人や社会、自然と身体を通して直接関わりながら、自らの興味・関心を発揮して具体的な活動や体験を行うことを重視する。
- 【活動や体験をする】
- ・活動や体験の中で感じたり考えたりしている児童の姿を丁寧に見取り、働きかけ、活動の充実につなげる。【感じる・考える】
- ・表現したり、行為したりすることを通して、働きかける対象についての気付きとともに、自分自身についての気付きをもつことができるようにする。【表現し行為する】

【小学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○活動に対して、前向きに活動できる子もいれば、受け身になっている児童もいる。</li> <li>○児童自らが思いや願いをもち、学習活動を進めるまでには至っていない。生活科の学習は何か、児童や保護者に伝わっていない。</li> <li>○近くの友達同士で交流はしている児童もいるが、その交流が学級に広まり、次の活動の方向性を決めるまでには至っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活科の学習内容が児童に伝わっておらず、教師が主導の活動になっている。</li> <li>○学習指導計画の作成が十分でなく、活動に向けての準備が十分にできていない。毎時間の授業の流れの中で思いや願いをもたせられていない。</li> <li>○交流が広がらず、うまくできなくてあきらめてしまう児童もいる。1人1人の気付きを交流させ広げるに教師の指導が至っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○年間指導計画を練り、児童の思いや願いが実現しやすいような活動の場や環境設定を充実させる。各クラスに簡単な製作をいつでも繰り返し広げられるような道具を備える。</li> <li>○生活科の学習で育てたい力を担任同士が共通理解し、幅をもたせた計画や準備ができるようにする。スタートカリキュラムを工夫し、学級の共通の願いのもとに製作や表現を伴った活動を行い、生活科の学習を開く単元として位置づける。</li> <li>○授業での教師の役割を見直し、児童の気付きを見つけ、生かせるような支援の仕方を考える。</li> <li>○関わり合いが生まれるメンバー構成や場の設定などを考える。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体験的な学習に制限があったため、直接的な関わりが少なく、学習内容を身近なものにあまり感じられていない様子もある。</li> <li>○関心や意欲をもって学習している児童が多いが、自分の思いをもち、主体的に学習に取り組むまでにはなっていない。</li> <li>○自然や地域との関わりについての気付きを自分の言葉として表現することに課題が見られる児童も見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習のねらいに問題意識や興味関心が向くような、教材選びや課題の設定が必要。</li> <li>○児童にとってなるべく身近な生活圏での体験を対象にし、具体的な活動を行う中で自分の思いや願いがもてるよう支援をしていく。</li> <li>○細かい部分まで観察、表現の技能に対する個人差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体験的な学習以外のところでは、ゲストティーチャーの活用や写真など視覚的にうったえるものを多く取り入れる。</li> <li>○児童が願いや思いをもち、具体的な活動を通して実現していくことができるよう年間指導計画をよく見て、内容を確認しながら、実践していく。</li> <li>○観察したことや気付いたことなどをカードやiPadなどのICT機器を使って、多様な形で記録をできるようにする。</li> <li>○気付きや思考をみとるための振り返りを細かく行う。</li> <li>○気付きのメモや、まとめ方について、例示を具体的に示す。</li> </ul>

(6) 音楽科

音楽科の重点

- ・すべての児童が主体的に、自分が表したい音楽表現をするために必要な技能が身に付けられるように、音楽の基礎・基本、及び、学びに向かう態度を育てる。
- ・対話的な学びを通して、音楽の諸要素や仕組み、歌詞の内容を手がかりにして曲想を感じ取り、より深く音楽のよさを味わって聴いたり、自分の思いや意図をもって表現したりできるようにする。
- ・児童自身が本時の課題と学習過程を設定できることを目指す。

【小学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今年度は、感染拡大防止のため鍵盤ハーモニカの学習の開始が遅れている。</li> <li>○鑑賞では、曲の様子を感じて言葉で交流する活動が深まりきらなかった。</li> <li>○リズムを楽しみながら、体を動かし音楽に親しんでいるが、曲の様子を考えて豊かな表現をしている児童は少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○タンギング・指使いが未習熟の児童が増える可能性がある。</li> <li>○児童がもつ語彙が少なく、感じたことを言語化するに至っていない。</li> <li>○どの楽曲でも同じように大きな声で、怒鳴るように歌ってしまう児童もいる。情景を思い浮かべながらまでは至っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コロナウィルス感染拡大の状況下であるため、様々な楽曲の中で階名や音高の感覚を身に付くような活動や運指を楽しめる活動を工夫する。タンギングの仕方を歌詞として口ずさみながら曲に親しむ活動を通して、今後の奏法指導につなげる。</li> <li>○鑑賞の後に、個々の児童の思いを交流する活動を取り入れ、気付きを広げ、さらに楽曲への親しみがもてるようにする。普段の生活から言語で表現する機会を設定する。</li> <li>○言葉の意味を知ったり、曲の情景のイメージを広げたりさせながら曲に親しませる。曲に繰り返し親しませ、歌詞を覚えることで言葉に思いを乗せた表現ができるようにする。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歌の音程がとれない児童もいるが、よい音程で歌い、しっかりとリズムを取ることができる児童が多い。</li> <li>○発言、発表がすすんでできる児童は限られてはいるが、友達の発言を聞いて学習することができる児童は多くいる。</li> <li>○前期は鍵盤ハーモニカや他の楽器を扱うことができなかつたので、運指の練習が十分ではなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歌声のコントロールができない児童がいる。(声の出し方)</li> <li>○積極的に表現できない児童がいる。</li> <li>○鍵盤ハーモニカの運指の定着に差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歌詞の内容や曲の感じに合った表現を工夫する活動を通して、「元気な歌声」だけではなく、様々な音色があることを知り、発声の仕方を工夫できるようにする。</li> <li>○ペアやグループで自分の考えを伝え合う活動を行ったり、ワークシートに記入したりして、発言できるようにする。</li> <li>○音を出さずに指遣いだけの練習をしっかり行い、場所などを考慮し音を出して練習する機会を設定する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○意欲にあふれている児童が多く、歌ったり音楽をつくったり、様々な活動に進んで取り組んでいる。</li> <li>○やさしい発声、正しい音程で歌える児童が多い。三部の輪唱もきれ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○意欲的だが、人の話をよく聞くことができなかつたり、自分の思いを通してトラブルが起きやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○担任と相談しながら、学習のルールを整え、友達との上手な関わり方を学べるようにする。</li> </ul>

	<p>いに声を重ねて歌っている。</p> <p>○リコーダーの学習がほとんどできていないが、数回の活動ではやさしい息の出し方で音を出している。</p>	<p>○タンギング、リコーダーの運指の学習がまだできていない。</p>	<p>○楽器の音を出さずに、階名唱をしながら運指をしたり、タンギングと運指を合わせたりする練習を行う。 演奏動画を Classroom にのせて、自宅でも学習できるようにする。</p>
4年	<p>○気分次第でとても意欲的だったり全くやらなかったりしてしまう児童がいる。全体的には穏やか。</p> <p>○歌声のコントロールができない児童が数人いる。</p> <p>○リコーダーは3年の時に、少ない時間ながら確実にできるようになった。4年になってからは取り組めていない。</p>	<p>○自己中心的な児童に対して我慢して、他の児童が十分に活動できなったり、主体性をなくしてしまったりする。</p> <p>○音程が合っていないことに気付いていない。</p> <p>○児童にリコーダーに対する不安がある。</p>	<p>○一人一人が学習課題をもてる導入を工夫を行う。様々な学習活動を用意し、個人に合った活動を児童自身が選べるようにする。</p> <p>○正しい音と自分の歌声を比べて聴いたり、自分の出せる声の高さを調べたり、自分の歌声をよく聴く機会をつくる。</p> <p>○楽器の音を出さずに、階名唱をしながら運指をしたり、タンギングと運指を合わせたりする練習を行う。 演奏動画を Classroom にのせて、自宅でも学習できるようにする。</p>
5年	<p>○発言が一部の児童に限られたり、思考の場面で人任せになってしまったりする。</p> <p>○ハーモニーをつくることはできてきた。しかし、高学年にありがちな歌声の弱さが出てきている。</p> <p>○演奏したい気持ちはあるが、技能の差が大きく、私語が多くなりがち。</p>	<p>○課題に対して自分事として捉えられず、深く考えることができない。</p> <p>○歌声が弱々しい児童がいる。歌う気持ちの減衰。</p> <p>○技能面で自信がない児童がいる。</p>	<p>○一人一人が学習課題をもてる導入を工夫を行う。様々な学習活動を用意し、個人に合った活動を児童自身が選べるようにする。</p> <p>○児童の心情に合った選曲をしたり、ハーモニーの美しさを実感させたりして、歌うことを楽しめるようにする。</p> <p>○できないことをできるようになりたいと思っている。その意欲を大切にして、Classroom の演奏動画を使って個人で練習を進められるようにしたり、児童同士で教え合ったりできるようにする。</p>
6年	<p>○全体的に穏やかで主体的に学習している児童も増えてきた。一部いい加減な態度の児童や、受け身な児童もいる。</p> <p>○器楽に自信がない児童もいるが、ほとんどの児童が自分で練習を進めることができる。</p> <p>○どのように表現するかについて思いをもてるが、そのための技能が十分身に付いていない。</p>	<p>○主体的に取り組めない児童がいる。</p> <p>○技能面で自信がない児童がいる。</p>	<p>○一人一人が学習課題をもてる導入を工夫を行う。振り返りを毎時行い、学んだことやできるようになったこと、次の課題を明らかにする。</p> <p>○できないことをできるようになりたいと思っている。その意欲を大切にして、Classroom の演奏動画を使って個人で練習を進められるようにしたり、児童同士で教え合ったりできるようにする。</p>

(7) 図画工作科

図画工作科の重点

- ・「全ての児童が主体的につくりだす喜びを味わうことができ、学びに向かう態度を育てる」ことを重点目標とし、題材ごとに材料の特性を知り、その特性に合わせて、つくりたいものを言語化することやアイディアスケッチをすることによって発想を深め、イメージにあった作品が作れるようにする。
- ・イメージを形にするためにも、初めて扱う用具の指導を特にていねいに行い、以後継続的に使うことで正しく用具が扱え、材料を活用できるようにする。造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- ・作品鑑賞の時間を、作品完成後だけでなく制作の途中にも設け、友だちの作品のよさに目を向けさせ、自分の作品のよさにも気付くことを通して、つくりだす喜びを味わうとともに、豊かな情操を養う。

【小学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○何でも意欲的に、楽しく取り組むことができている。</li> <li>○パス、のり、はさみの正しい使い方を覚え、活用できる児童とそうでない児童がいる。</li> <li>○表現したいことをすぐにイメージできる児童がほとんどであるが、作成のねらいや表現の仕方が分からず、製作が先に進まない児童が一部見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○指先を使った経験が少なく、学級全体での指導では、定着しない。特にのりについては、触ること自体に抵抗感がある児童が増えている。</li> <li>○言葉や見本からでは、目的や製作過程がイメージできず、取り組みに時間がかかったり、製作のねらいと逸れてしまったりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○継続的に道具の使い方をふり返り、題材に盛り込む。</li> <li>○作成のねらいや注意ポイント、作成の過程などをより分かりやすく掲示したり、作業過程の数か所で、見本や友達の作品を紹介し合ったりすることで、ねらいに沿った作業が進められるようにする。</li> <li>○児童の実態をきちんとつかみ、個別指導に努める。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○どの題材でも意欲的に楽しく活動できている。</li> <li>○パスや絵の具の扱い方の覚えが早く、創意工夫をしながら作品制作に取り組んでいる。</li> <li>○ねらいを理解していない児童が数名いる。</li> <li>○友達の作品を見ながら良いところや工夫を見つけ認め合う姿が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一部の児童がパレットの使い方のルールを守れていない。</li> <li>○視覚的・聴覚的にねらいや授業の流れを理解できる環境を整え切れていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○低学年の内から使い方を徹底できなければ、戻すことは難しい。授業の始めに取り扱い方の復習をしたり、個別指導に努めたりする。</li> <li>○GoogleClassroomで新しく学んだことを映像等でふり返られるようにする。</li> <li>○視覚的・聴覚的にねらいや授業の流れを理解できる環境を整え、実践する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○意欲的に取り組める児童が大半だが、課題のある児童もいる。また、作品を適当に仕上げる児童もいる。</li> <li>○これまでに学んできた技法を活用できるようになった。</li> <li>○制作中や鑑賞の際に、</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○集中力が続かず、作品制作において創意工夫が見られない。</li> <li>○友達の作品の良さや工夫を見つけたり、認めたりすることができていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○意欲的に取り組めるような導入や言葉かけをさらに工夫し、授業を魅力的なものにする。</li> <li>○鑑賞についての見方・考え方を日々の授業で身に付けさせる。また、良い言葉と悪い言葉の例を示しながら、自分に置き換えて考えさせるように指導する。</li> </ul>

	<p>相手が傷つく言葉を言ってしまう児童が数名いる。</p>		
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習意欲が高く、何事にも積極的に取り組む姿勢が見られるが、一部の児童の集中力がもたなかったり、授業に取り組まなかったりする児童がいる。</li> <li>○技能が非常に高く、新たな材料や道具を使う授業でも技能を習得し、創意工夫しながら作品制作に取り組むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自己中心的な児童に対して萎縮したり、全体指導が止まったり、机間指導する時間が減ったりしている。</li> <li>○魅力的で効果的な導入や効果的な声かけにより力を入れる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○題材の初めに制作時間数や制作の流れをつかませる。板書やワークシートを工夫し、制作の見通しをもって作品制作に取り組めるようにする。</li> <li>○クラス全体、個別に必ず守るきまりを決め、毎時間振り替える。指導することが増えるため、できたことや守れたことを認め、褒めて伸ばしていく。</li> <li>○児童が引き込まれる導入や効果的な声かけを行う。本校の諸先輩方や他校の先生方にもご指導いただき、指導力を伸ばす。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○意欲は高いが、教師を呼んで確認する場面が多くある。</li> <li>○共同で作品をつくることを好み、自分の意見をアイディアスケッチや言葉で伝え、友達と協力しながら取り組むことができる。</li> <li>○友達の作品の良いところや工夫を見つけ、認めることができる。しかし、自分の作品に対する自己評価は低い。</li> <li>○授業の時間内で作品が仕上がらない児童が数名おり、個別の対応をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○作品と向き合い、より良い作品になるようにどのようになるべきなのか、考え自らの力で切り拓くことに課題がある。</li> <li>○自己評価が低い。</li> <li>○作品制作の見通しがもてていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○作品制作の途中でミニ鑑賞の時間をとり、工夫を見つける時間を増やす。また、児童同士で悩みを相談したりアドバイスをもらったりできるような環境をつくり、教師に頼りすぎず、問題解決能力を高めていく。</li> <li>○鑑賞カードだけでなく、鑑賞の発表や付箋を使った方法を駆使しながら、自己評価を高める。また、様々な画家の作品を見せながら、上手い下手ではない、自分が表したい作品をつくること、自分が納得する作品をつくることを図工であることを日々伝えていく。</li> <li>○題材の初めに制作時間数や制作の流れをつかませる。板書やワークシートを工夫し、制作の見通しをもって作品制作に取り組めるようにする。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習意欲が非常に高く、楽しく制作する様子が見られる。</li> <li>○見通しが甘かったり、緻密なデザインを考えたりすることで、授業時間内に作品が完成しない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全員に見通しをもたせられていない。</li> <li>○こだわりをもって取り組んでいる児童とどう関わるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○この時間でここまで終わらせると、より具体的に見通しをもたせる。</li> <li>○高学年になると、こだわりをもって取り組む児童も多くいる。児童と対話を通して、時間内に取り組むことの大切さを指導しつつ、想いや願いが実現できるように指導する。</li> </ul>



**(8) 家庭科**

**家庭科の重点**

生活の営みにかかわる見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 家族や家庭、衣食住、消費や環境について日常生活に必要な基礎的な理解を図り、技能を身に付くようにする。
- (2) 日常生活の中から問題発見⇒課題設定⇒解決方法の検討⇒実践⇒評価・改善を繰り返し、課題解決の力を養う。
- (3) 家庭生活を大切にすることを育み、家族や地域の人々との関わりを考えたり、家族の一員として生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。

**【小学校】**

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
<b>5年</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭科に対する興味関心は高く、実習には積極的に取り組む児童が多い。</li> <li>○裁縫に関しては4割、調理に関しては半数の児童が家庭でも実践している。</li> <li>○生活経験による技術の差や、学習に対する意欲の差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○裁縫は技能に差があり、課題に費やす時間配分が難しい。</li> <li>○調理は、コロナ感染防止のため、実習ができないので、技能を身につけさせるための指導法を工夫する必要がある。</li> <li>○家事と学習を関連付け、家庭生活に活かすため、意欲的に取り組めるよう実践を伴う指導を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○裁縫は児童同士でも教え合う環境を作れるよう得意な児童の座席を苦手な児童の近くに、児童同士が教え合う環境を作れるよう工夫する。また、進度の速い児童に追加の課題を用意し、自ら工夫して技能向上していけるようにする。</li> <li>○調理は、学校では映像などを利用し技能を視覚的に習得し、実践については家庭の協力を仰ぎ、家庭学習(宿題)の課題を通じて技能習得できるようにする。</li> <li>○自分で使うための物を製作したり、身の回りの整理など生活場面を設定し実践を伴う課題に取り組み、生活をより良くするため知識や技能を取得できるよう指導方法を工夫する。</li> </ul>
<b>6年</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭科に対する興味関心が高い</li> <li>○裁縫に関しては約3分の2、調理に関しては約8割の児童が家庭でも実践している。</li> <li>○クラス全体で学び合う姿勢が見られ、実践に関しては、分からないところを積極的に聞いてくる児童が多い。</li> <li>○家事経験のあまりない児童も見受けられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○裁縫は技能に個人差が大きく時間の配分が難しい</li> <li>○調理はコロナ感染防止のため実習が出来ないので、技能を身につけさせるための指導法をより研究する必要がある。</li> <li>○家事と学習を関連付け、家庭生活に活かすため、意欲的に取り組めるよう実践を伴う指導を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○裁縫は、クラス全体で学び合う姿勢を活かし、お互い教え合うような環境を作り、皆が技能を習得できるよう指導する。</li> <li>○調理は学校では映像等を利用し、技能を視覚的に習得し、実践については家庭の協力を仰ぎ家庭学習(宿題)の課題を通して技能習得できるようにする。</li> <li>○住まい方や家事についてなど、日常生活の課題を授業の学習課題として取り上げるなど、より生活に結びつくよう学習内容や指導方法を工夫する。</li> </ul>

(9) 体育科

体育科の重点

- ・心と身体を一体としてとらえ、自己の運動や健康についての課題の解決に向け、積極的・自主的・主体的に学習することや、仲間と対話し学び合い、協力して課題を解決する。
- ・運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、自己の考えや気づきを他者に伝える力を養う。
- ・その特性に応じた各種の運動の行い方や基本的な動きや技能を身に付けるようにするとともに、身近な生活における健康・安全について理解する。
- ・運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。

【小学校】

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達と技を交流したり、協力して協力して活動する経験が少ない。</li> <li>○運動量が少なく、体を自在に動かすことができない。</li> <li>○集団行動が苦手な児童が何人かいる。友達と適切な距離を取ったり、調節したりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今年度は感染拡大防止策を講じながら、工夫して活動を設定することが必要である。</li> <li>○疲れやすく、体の動きもぎこちない児童が多い。</li> <li>○まっすぐに並んだり、人との適度な間隔をとったり、スピードの調整をしながら、動くことが苦手な児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○状況をみて、関わり合いが生まれるような場の設定やグルーピングの工夫を行う。振り返り時間の確保をして交流を図る。</li> <li>○分かりやすい場の設定を心がける。シンプルで運動量がしっかりと確保されるような場の設定をする。</li> <li>○多様な動きを作る運動遊びを取り入れる。学習過程を工夫し、1単位時間で活動を組み合わせ、単元を柔軟に横断させて様々な動きができるよう工夫する。</li> <li>○具体的な場面で、安全でスムーズな動きにつながる指導をその都度声かけたり、場や活動を設定したりしてスモールステップで学びが積み上げられるようにする。</li> </ul>
	2 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○進んで楽しく活動できている。</li> <li>○振り返りの活動を通して、友達の良い所を褒めることができている。</li> <li>○めあてに対する意識が低い。</li> <li>○集団のなかでルールを守って活動したり、勝敗を受け入れたりすることが苦手な児童がいる。</li> <li>○水遊びを安全に行うことができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○その時間のめあてを達成できたか、振り返りの時間の確保ができていない。</li> <li>○工夫すべきところの提示が不十分であり、思考・判断を見とれていないことがある。</li> <li>○ルールの明確な指示が必要。理解が確認できた上で活動を行う。</li> </ul>

3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○進んで楽しく活動できている。</li> <li>○友達の良い所を褒めることができる。</li> <li>○めあてを最後まで意識して活動できていない。</li> <li>○児童によって運動の技能差が大きく、運動への取り組みに苦手意識をもっている児童がいる。</li> <li>○集団のなかでルールを守って活動したり、勝敗を受け入れたりすることが苦手な児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○その時間のめあてを達成できたか、振り返りの時間の確保ができていない。</li> <li>○工夫すべきところの提示が不十分であり、思考・判断を見とれていないことがある。</li> <li>○自己の課題に合った場を用意する。</li> <li>○勝敗のことに集中してしまう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「めあて」と「振り返り」が適切にできている児童を紹介したり、友達と「めあて」を確認したりして、意識できるようにする。</li> <li>○練習のポイントを提示し、それを友達同士で教え合ったりしながら、練習できるように、場の設定などを工夫する。</li> <li>○自己の課題に合った場をいくつか用意し、取り組みやすいところから練習できるようにする。</li> <li>○勝敗にこだわるのではなく、めあてを意識した動きをすることを前もって伝える。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○進んで楽しく活動し友達の良い所を認めることもできている。</li> <li>○めあてを最後まで意識して活動できていない。</li> <li>○集団のなかでルールを守って活動したり、勝敗を受け入れたりすることが苦手な児童がいる。</li> <li>○マット運動や鉄棒などの器械運動の基礎的な技ができない児童が少なくない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○その時間のめあてを達成できたか、振り返りの時間の確保ができていない。</li> <li>○工夫すべきところの提示が不十分であり、思考・判断を見とれていないことがある。</li> <li>○活動のねらいを児童に十分に伝えられていない。</li> <li>○個別に指導する時間の確保やポイントの提示などが十分でない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「めあて」と「振り返り」が適切にできている児童を紹介したり、友達と「めあて」を確認したりして、意識できるようにする。</li> <li>○練習のポイントを提示し、それを友達同士で教え合ったりしながら、練習できるように、場の設定などを工夫する。</li> <li>○勝敗にこだわるのではなく、めあてを意識した動きをすることを前もって伝える。</li> <li>○練習のポイントを提示し、それを友達同士で教え合ったりしながら、練習できるように、場の設定などを工夫する。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体を動かすことが好きではない児童がいる。</li> <li>○運動に進んで楽しく活動できている児童が多いが、運動経験に偏りがあり、技能差が大きい。</li> <li>○技能を身につけるためのポイントや高めるためのポイントを理解できないまま取り組んでいる児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○運動の特性をしっかりと味わわせる必要がある。</li> <li>○学習カード・学習資料を使っての課題解決学習が取り組めていない。</li> <li>○技能を身につけたり高めたりするために必要な知識、教え合いの指導の工夫が十分でない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スモールステップで取り組める場を用意し、恐怖心を取り除くことができるようにする。</li> <li>○練習や技のポイントを掲示したり、教え合いで気付きの場面を増やしたりすることで必要な知識や活用の仕方を身につけられるようにする。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>○動きのポイントを示すことで友達と教え合っ自己の課題を解決しようとする児童が多い。</li> <li>○自己の課題把握が適切でない児童が一定数いる。</li> <li>○運動が苦手な児童も前</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達と見合う際の視点をもたせることで課題解決学習をより充実させる。</li> <li>○学習資料を充実させたり、ICT機器を取り入れたりする。</li> <li>○自己の課題に合った練</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ペアやトリオ学習をより充実させるために、学習資料や学習カードを活用する。</li> <li>○ICT機器の効果的な使い方を示し、児童が自ら学習に取り入れていけるようにする。</li> <li>○スモールステップで取り組める場</li> </ul>

向きに取り組むが、運動経験に偏りがあり、技能差が大きい。  
○体の使い方に課題がある児童が多い。

習をできる場が必要である。  
○基礎基本となる動きを継続して取り組んでいく必要がある。

を用意し、恐怖心を取り除くことができるようにする。  
○毎時間の導入で基礎基本の動きを取り入れることを継続する。

**(10) 外国語活動・外国語科**

**外国語活動・外国語科の重点**

- ・外国語を用いた言語活動を通し、言語や文化について、体験的に理解を深める。
- ・ALT や ICT 機器を活用し、ネイティブな発音を多く聞かせ、音声や基本的な表現に慣れ親しませる。
- ・自ら外国語で聞いたり話したくなるよう、コミュニケーションの目的や必然性のある場面、状況などを設定する。(外国語を使って何ができるようになるかを明確にする)
- ・動作を交えた挨拶、感謝、簡単な指示等をやり取りの中で行い、十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いることで、自分の考えや気持ちなどを伝え合うやり取りの楽しさを実感させる。
- ・音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書かせる。

**【小学校】**

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
3年	○意欲的に取り組む児童が多く、声を出すことや動作などの表現を楽しんでいる。	○ALT との十分な打ち合わせができず、より効果的な活用ができていない。	○見通しをもって単元や1単位の授業を計画的に作る。(担任のみの授業のときとT・Tの授業のとき)1単位の授業でALT との基本的な役割分担は固定化する。
4年	○授業を楽しみにしている児童や外国での文化や遊びについて知ることを楽しんでいる児童もいるが、感心に個人差がある。 ○英語の繰り返し表現など、あまり積極的に声に出さない児童もいる。	○英語の楽しさを感じられるような指導が不十分である。 ○英語の繰り返し表現など、あまり積極的に声に出さない児童もいる。	○より担任とALT の連携を図り、より積極的に声を出し、英語を使う楽しさを感じるようにする。
5年	○積極的にチャンツやソングを歌っている児童が多い。しかし、外国語に苦手意識のある児童もいる。 ○個々の能力差が大きい。 ○アルファベットの定着が不十分な児童が多い。	○チャンツ等を通して英語表現に慣れる活動で、理解が深まらない児童もいる。  ○中学年での学習が定着していない。	○全体だけでなく、個々で発音をしたり英語でやりとりをする場面を多くしたり、コミュニケーションを通して慣れ親しめるようにする。  ○言葉を書き取る機会を毎時間とり、アルファベットの定着を図る。
6年	○ローマ字の定着が深まった。 ○外国語を聞く・話す・書くという活動に慣れてきて、自ら外国語を使ってコミュニケーションを図る場面が増えたとともに、その楽しさを感じている。 ○個々の能力差が大きい。	○音声で慣れ親しむ活動で理解が深まる児童と深まらない児童の差がある。	○聞く・話す・書くの活動をより多く取り入れ、繰り返し表現に触れる。 ○担任とALT の連携を図る。

**ALTの活用の工夫**

- ・年間計画を示し、ALT の活用場面を学校全体で共有する。
- ・ALT との十分な打合せを行い、授業内容の工夫を行う。
- ・教室でのICT機器の活用と併用し、ネイティブな発音で児童に伝え、活動を行う。